



## 第213回東海地区企業動向調査について

2026年2月6日

株式会社 十六総合研究所

十六フィナンシャルグループの株式会社十六総合研究所（代表取締役社長 澤田 大輔）は、岐阜県・愛知県の企業に対し「第213回東海地区企業動向調査」を実施しましたので、その結果を別紙のとおり公表いたします。

＜別紙＞第213回東海地区企業動向調査

以上

【ご照会先：十六フィナンシャルグループ（広報） TEL 058-266-2511】

2026年2月6日

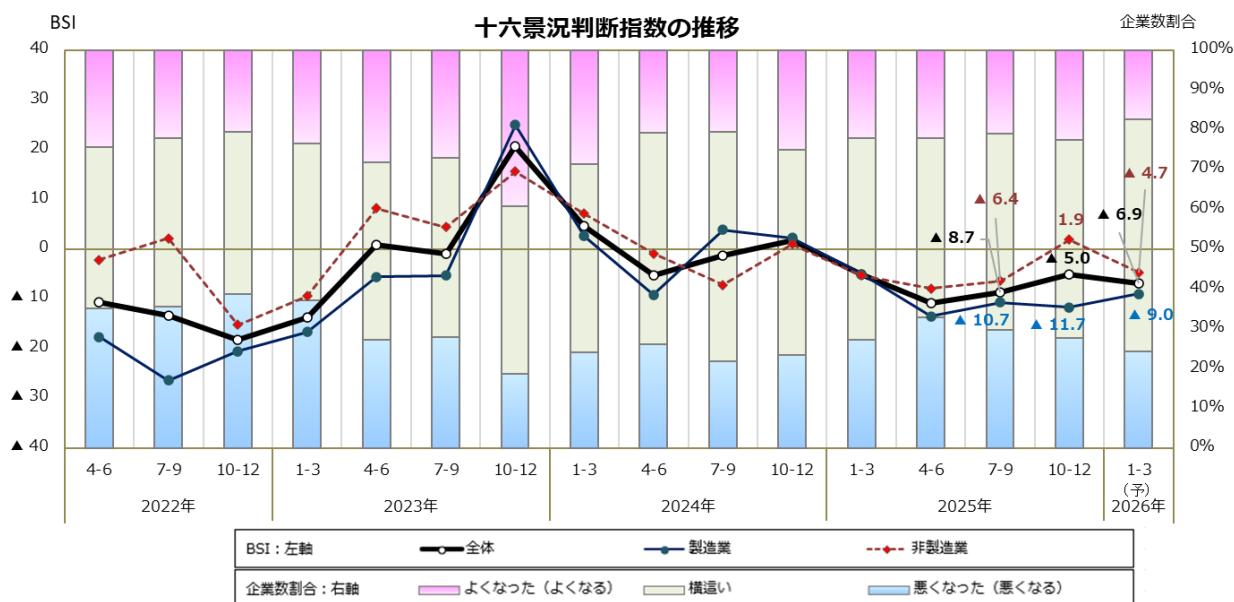
# 第213回 東海地区企業動向調査

『2025年10~12月期 十六景況判断指数 調査報告』

- ① 十六景況判断指数は▲5.0（前期比3.7ポイント増）と2期連続で上昇。来期は▲6.9（今期比1.9ポイント減）とやや低下し、依然として先行きの不透明感が払拭されていない。
- ② 来期の設備投資の主な目的は、「生産・販売能力の増大」が29.3%（今期比12.7ポイント増）と、前向きな投資が急増する見込みである。
- ③ 雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲40.4（前期比2.2ポイント減）と低下し、人手不足感が一段と強まった。

## 調査要領

1. 調査方法 岐阜県、愛知県の企業に対し、Webと郵送を併用しアンケートを実施
2. 調査時期 2025年12月1日～15日
3. 調査期間 今期：2025年10月～12月期 実績（見込み）  
来期：2026年1月～3月期 予想
4. 回答状況 有効回答数218社（岐阜県、愛知県の企業600社、有効回答率36.3%）
5. 本調査の経緯 第1回調査 1966年1月(半期ごと)、1980年6月より四半期ごと



ご照会先  
十六総合研究所 リサーチ部  
研究員 藤木由江  
岐阜県岐阜市神田町7-12  
TEL 080-3483-8489

**\* 十六景況判断指数**

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなつた/よくなる」と回答した割合から「悪くなつた/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

**\* BSI (Business Survey Index)**

各項目につき、前年同期と比べて好転（増加・上昇・容易・過大）と回答した割合から、悪化（減少・低下・困難・不足）と回答した割合を差し引いて求めた指標

## 1. 本期実績と来期予想

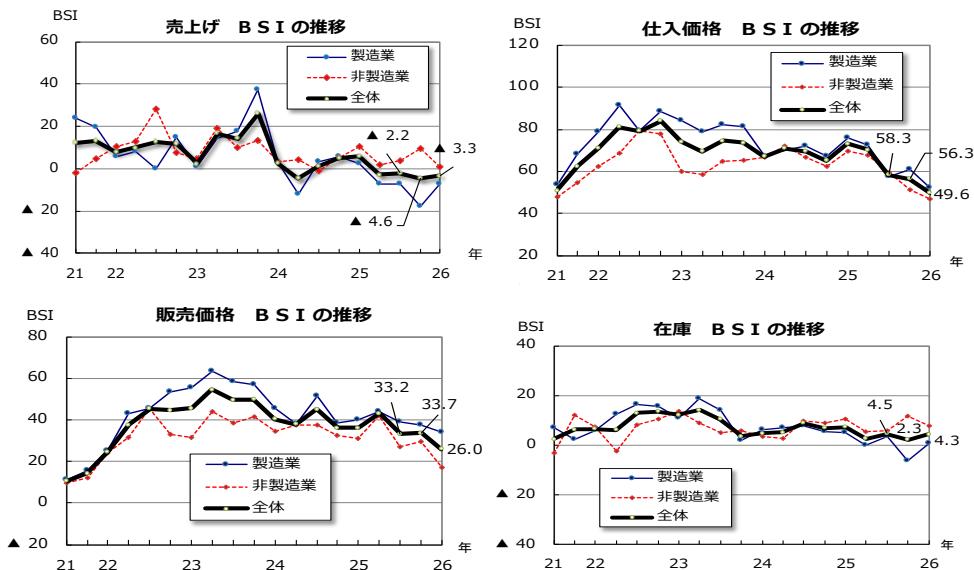
### (1) 十六景況判断指数

十六景況判断指数は、▲5.0（前期比3.7ポイント増）となり、2期連続で上昇した。依然として4期連続のマイナス圏にあるものの、改善傾向にある。業種別にみると、製造業は▲11.7（同1.0ポイント減）とやや低下した一方、非製造業は1.9（同8.3ポイント増）と上昇し、プラス圏に浮上した。AIの活用やDXの推進、高市新政権による産業支援策などを背景に、設備投資は堅調を維持し、株高に伴う資産効果や賞与の増加などにより、個人消費も持ち直しの動きが見られる。一方で、円安に伴う原材料価格の高止まりや人件費、

光熱費などのコスト負担、深刻な人手不足が問題となっているほか、米国トランプ政権による政策の不透明感や、中国政府による日本旅行の自粛勧告はじめとするさまざまな圧力など、先行きの懸念材料も意識されている。

来期の十六景況判断指数は、▲6.9（今期比1.9ポイント減）とやや低下する見込みである。業種別にみると、製造業は▲9.0（同2.7ポイント増）と上昇が見込まれるもの、今期上昇した非製造業が▲4.7（同6.6ポイント減）と、再びマイナス圏へ転じる見込みである。

### (2) 各項目の BSI の推移



売上げ BSI は▲4.6（前期比2.4ポイント減）と低下した。外需の不透明感などから足元は足踏み状態にあるが、来期は▲3.3とやや上昇する見込みである。

仕入価格 BSI は 56.3（同2.0ポイント減）と低下傾向にあるものの、依然として「上昇」と回答した企業が、「低下」を大きく上回る水準が続いている。来期は

49.6とさらに低下する見込みである。一方、販売価格 BSI は 33.7（同0.5ポイント増）とほぼ横ばいで推移し、来期は 26.0 と低下する見込みである。

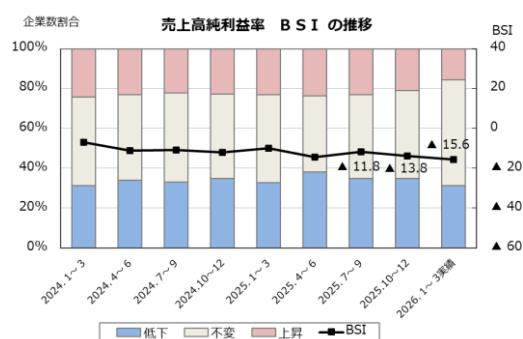
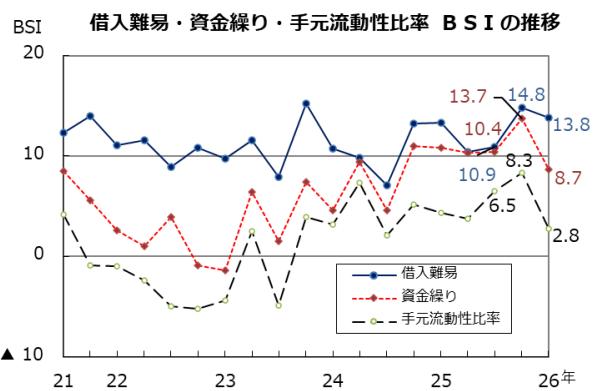
在庫 BSI は 2.3（同2.2ポイント減）とやや低下し、来期は 4.3 と上昇に転じる見込みである。

### (3) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

今期の借入難易 BSI (容易ー困難) は 14.8 (前期比 3.9 増)、資金繰り BSI (楽ー苦しい) は 13.7 (同 3.3 増)、手元流動性比率 BSI (上昇ー低下) は 8.3 (同 1.8 増) と上昇した。来期の借入難易 BSI は 13.8、資金繰り BSI は 8.7、手元流動性比率 BSI は 2.8 といずれも低下する見込みである。

### (4) 売上高純利益率

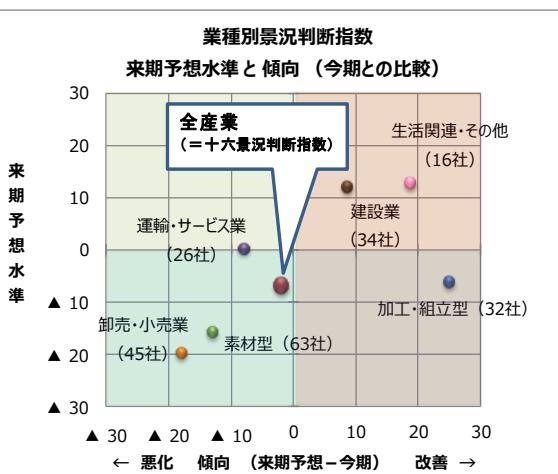
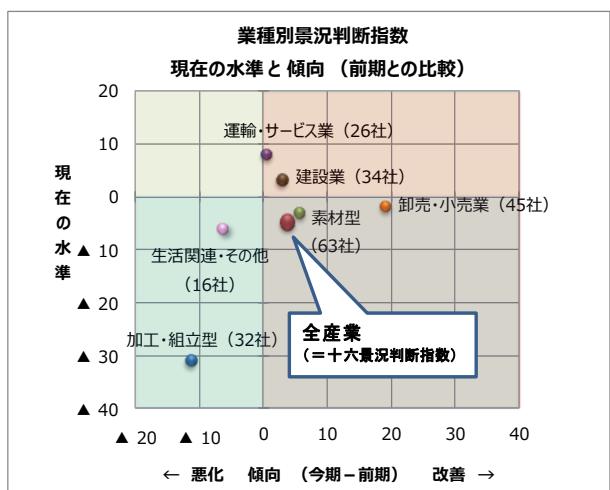
今期の売上高純利益率 BSI は▲13.8 (前期比 2.0 減) と低下した。上昇要因は「売上げ増加」が最も多く 67.4%、2 位は「諸経費節減」で 17.4% だった。低下要因は「売上げ減少」が最も多く 53.4%、次いで「原材料・仕入商品高」で 26.0% だった。来期の BSI は▲15.6 と小幅な低下が続く見込みである。



## 2. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期は加工・組立型と生活関連・その他以外のグループで BSI (よくなつたー悪くなつた) が前期

比改善した。特に卸売・小売業が前期比 19.2 増加と、大きく改善した。来期は加工・組立型、生活関連・その他、建設業のグループで BSI が今期比改善する見込みである。



### 注)【製造業の分類】

**素材型：** 木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

**加工・組立型：** 一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

**生活関連・その他：** 食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

※「鉱業」は回答企業数が少なかったため、分析の対象外とした。

### 3. 当面する経営上の最大の問題点

当面する経営上の最大の問題点（単一回答）順位の推移



当面する経営上の最大の問題点を尋ねたところ、「売上げの停滞・減少」が 26.9% となり、3期連続で1位となった。次いで「仕入商品・原材料高」が 22.6%、「求人難」が 17.8% で続いた。

業種別にみると、製造業では「売上げの停滞・減少」が 36.8% と最も高く、次いで「仕入商品・原材料高」(21.7%) が続いた。非製造業では「求人難」が 25.5% で最も高く、次いで「仕入商品・原材料高」(23.5%)、「売上げ・受注競争の激化」(19.6%) が続いた。

自由コメント欄では「新設住宅着工数も減少しており、景気の見通しが難しい。(愛知・木材・木製品)」、「急激な円安に伴う原材料価格の高騰に加え、輸送コストや倉庫代などの間接経費も上昇している。(愛知・繊維工業)」、「どの業種も人手不足が問題になっているが、窯業もかなり厳しい状況。労働者確保のために価格転嫁が必須だが、取引先が応じてくれないのが現実。(岐阜・鉱業)」など先行きの不透明感やコスト負担増に苦慮する声が寄せられている。

## 4. 設備投資

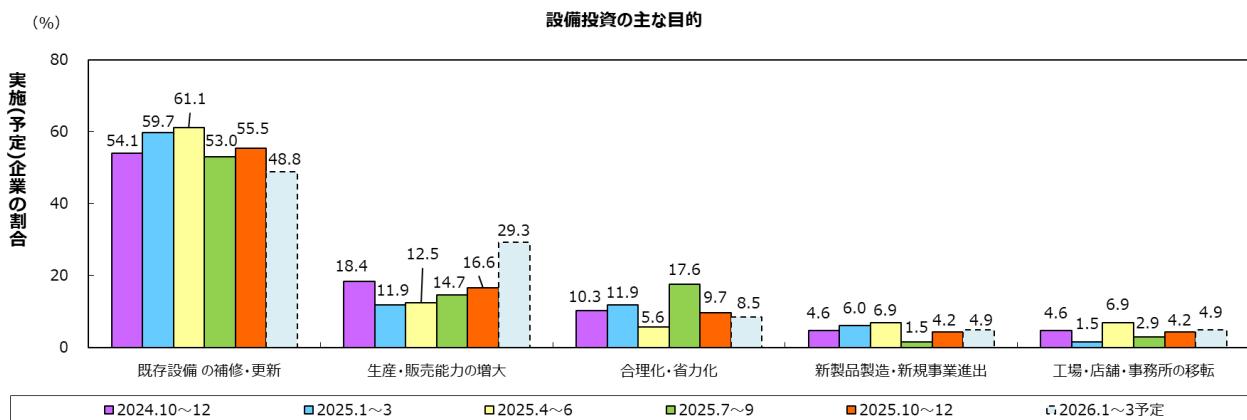
設備投資実施状況

(単位：%，百万円)

			全 体			製 造 業			非 製 造 業		
			実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額
2023	7~9	実績	38.1%	15,915	114	46.9%	3,770	47	27.0%	12,145	206
2023	10~12	実績	40.1%	7,581	56	44.9%	3,210	43	34.7%	4,371	72
2024	1~3	実績	31.3%	12,337	190	38.7%	9,380	213	22.4%	2,957	141
2024	4~6	実績	31.5%	6,530	40	35.4%	4,235	47	27.0%	2,294	31
2024	7~9	実績	36.7%	5,165	32	41.4%	4,137	48	31.2%	1,028	14
2024	10~12	実績	38.5%	9,599	113	41.9%	6,325	119	34.0%	3,274	102
2025	1~3	実績	31.9%	4,684	71	34.2%	3,566	89	29.0%	1,118	43
2025	4~6	実績	30.4%	4,659	66	32.3%	2,913	73	28.3%	1,746	56
2025	7~9	実績	30.1%	9,104	136	39.2%	8,457	184	20.2%	647	31
2025	10~12	実績	34.1%	6,879	104	37.5%	5,651	149	30.5%	1,227	44
2026	1~3	予定	38.3%	9,775	136	41.3%	7,315	174	35.2%	2,460	82

今期、設備投資を実施した企業の割合は製造業が37.5%（前期比1.7%増）と低下したものの、非製造業が30.5%（同10.3%増）と大きく上昇した。これにより、全体でも34.1%（同4.0%増）と上昇した。2割台に低迷していた非製造業の設備投資が再び活発化する兆しがみられる。

来期、設備投資を予定する企業の割合は製造業が41.3%（今期比3.8%増）、非製造業が35.2%（同4.7%増）といずれも上昇する見込みである。全体では38.3%（同4.2%増）となる見込みであり、年度末に向けて投資意欲が高まっている。



今期の設備投資の主な目的は、「既存設備の補修・更新」が55.5%（前期比2.5%増）と依然として半数以上を占めた。次いで「生産・販売能力の増大」が16.6%（同1.9%増）となり、前回の3位から順位を上げた。一方、前回2位だった「合理化・省力化」は9.7%（同7.9%減）に低下し、3位となった。

来期は、引き続き最多の「既存設備の補修・更

新」が48.8%（今期比6.7%減）と低下する一方、「生産・販売能力の増大」が29.3%（同12.7%増）と、前向きな投資が急増する見込みである。

戦略17分野の投資促進策など、国による産業支援等が具体化する中で、供給能力拡大のため生産ラインの拡張や新しい設備の導入を進める企業が増えていると考えられる。

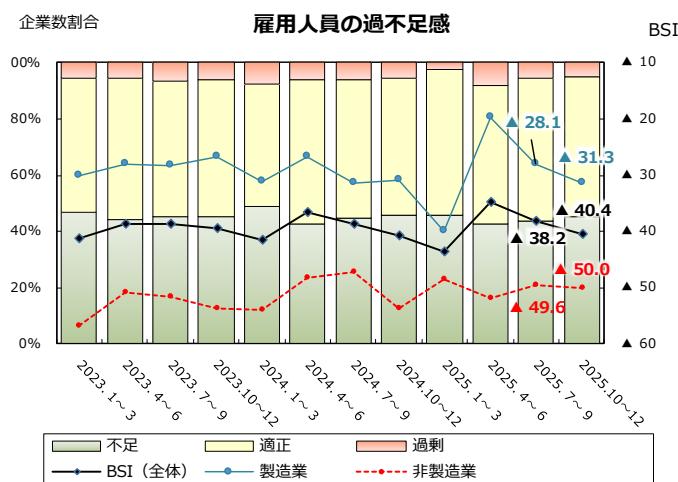
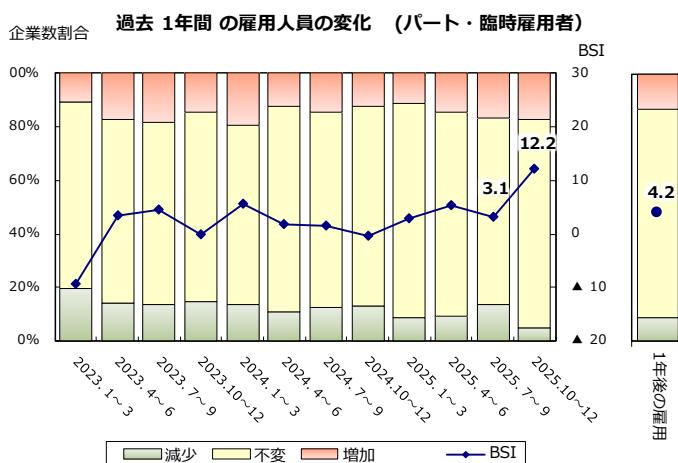
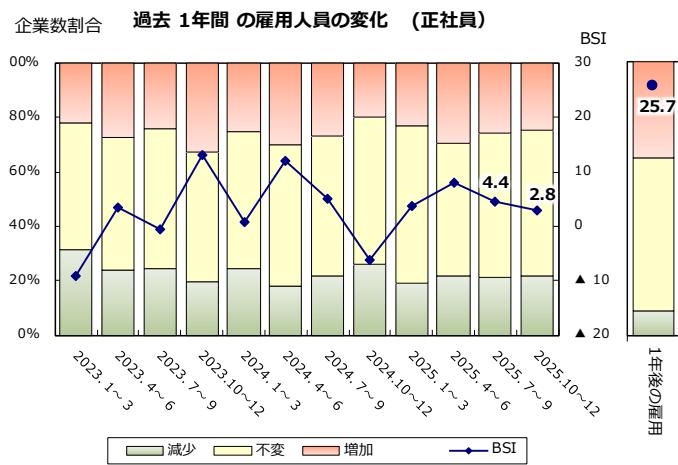
## 5. 雇用

過去1年間の雇用人員の変化BSI（増加－減少）は、正社員が2.8（前期比1.6ポイント減）と低下し、パート・臨時雇用者は12.2（同9.1ポイント増）と大幅に上昇した。

一方で、1年後の雇用人員の変化見通しBSIは、正社員が25.7、パート・臨時雇用者が4.2となった。将来的には、正社員の増加が期待されているが、足元ではパート・臨時雇用者が増加している。

雇用人員の過不足感BSI（過剰－不足）については、全体で▲40.4（前期比2.2ポイント減）と低下し、人手不足感が一段と強まった。業種別にみると、製造業が▲31.3（同3.2ポイント減）と低下し、非製造業は▲50.0（同0.4ポイント減）とほぼ横ばいで推移した。「過剰」と答えた企業が「不足」を上回る業種は皆無であり、人手不足の波は特定の分野に留まらず、幅広い業種に広がっている。

(研究員 藤木由江)



## 6. Data

回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	112	51.4
食料品	8	3.7
繊維工業	4	1.8
衣服・その他の繊維製品	0	0.0
木材・木製品	4	1.8
家具・装備品	1	0.5
紙・紙加工品	6	2.8
出版・印刷	3	1.4
化学工業	2	0.9
窯業・土石製品	13	6.0
鉄鋼・非鉄金属	12	5.5
刃物・金属製品	10	4.6
一般機械器具	14	6.4
電気機械器具	3	1.4
輸送用機械器具	15	6.9
プラスチック・その他製造業	17	7.8
非製造業	106	48.6
鉱業	1	0.5
建設業	34	15.5
卸売業	35	16.0
小売業	10	4.6
運輸業	10	4.6
サービス業	16	7.3
合計	218	100.0

回答企業の資本金別・従業員規模別・地域別構成

資本金	企業数	構成比(%)
1,000万円未満	12	5.5
1,000万円以上～3,000万円未満	87	39.9
3,000万円以上～5,000万円未満	45	20.6
5,000万円以上～1億円未満	52	23.9
1億円以上	22	10.1
合計	218	100
従業員数	企業数	構成比(%)
10人未満	19	8.7
10人以上～50人未満	87	39.9
50人以上～100人未満	46	21.1
100人以上～300人未満	47	21.6
300人以上～500人未満	9	4.1
500人以上	10	4.6
合計	218	100
地域	企業数	構成比(%)
岐阜県	138	63.3
愛知県	80	36.7
合計	218	100

十六景況判断指数 の推移

四半期	2021.7~9	2021.10~12	2022.1~3	2022.4~6	2022.7~9	2022.10~12	2023.1~3	2023.4~6	2023.7~9	2023.10~12	2024.1~3	2024.4~6	2024.7~9	2024.10~12	2025.1~3	2025.4~6	2025.7~9	2025.10~12	2026.1~3実績
良くなつた	27.6	31.5	20.9	24.3	22.2	20.6	23.4	28.1	27.0	39.2	28.6	20.7	20.6	25.1	22.1	22.1	20.9	22.6	17.5
横這い	50.0	42.2	46.1	40.7	42.3	40.6	39.5	44.7	45.1	42.2	47.4	53.3	57.6	51.6	50.7	45.0	49.5	49.8	58.1
悪くなつた	22.4	26.3	33.0	35.0	35.5	38.8	37.1	27.2	27.9	18.6	24.0	26.0	21.8	23.3	27.2	32.9	29.6	27.6	24.4
十六景況判断指数	5.2	5.2	▲ 12.1	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 13.7	0.9	▲ 0.9	20.6	4.6	▲ 5.3	▲ 1.2	1.8	▲ 5.1	▲ 10.8	▲ 8.7	▲ 5.0	▲ 6.9